

毎日歌壇

伊藤 一彦 選

アダージョがはじまる前の一瞬の静けさにわれ呼吸を止めおり 東京 水原 理都

「評」アダージョは言うまでもなく「ゆっくり演奏せよ」の意味だが、単に音楽の歌としてでなく深読みできるところが魅力だ。ずうろりと軒に吊るされ夕焼けに負けてまぜんよおけさ柿たち 長岡市 三月 とあ

「評」おけさ柿は佐渡名産。柿の色は「夕焼けに負けてませんよ」が楽しく面白い。前からの風に背を向け追い風と誤魔化しながらひたすら走る 東京 飯塚 潮音

気付かず他人本位で生きてきた過去の自分を私は抱く 奈良市 久保 祐子

怒られて頭を下げて謝って私は考えられない葦だ 東京 藤沢 静二

金色がふちどる雲のやぶれてるところに行きたくなったそれだけ 福津市 原田 冬

期待感と同じ重さのカバン持ち出発ゲートへ足早にゆく 相模原市 榎本 ハナ

凍結の路面にひそむ水神の笑はぬやうにゆつくりと往く 秋田 三浦 政博

頻尿も生きている証 回数を唇に記す真夜の静けし 延岡市 河野 正

反戦を言えば左にこの国が好きだと言えば右にされます 金沢市 竹内 二二

米川千嘉子 選

すぎだった 過去形がきみの思うよりずっと前からほじまっていたも 東京 遠野 鈴

「評」紛れもなく「すぎ」の気持ちがあつたことも、自分の気持ちが先に少しずつ冷めていったことも、ありありと悲しい。今日もいる制服デパート畑道デイクア送迎車内 沸騰 つくば市 松井のり子

「評」いつも同じ時間にすれ違う若い2人とデイクアの車。「沸騰」の語が楽しい。カチンコチンの頭に注入いたしまししょうマンゴーゼリーを八分目まで 三重 中山由賀子

年齢を上手に重ねゆくを見て苦手から好きに変わるキムタク 東京 富見井高志

全席が禁煙となり常連の彼はいないことバイトは知らず 瑞穂市 渡部 芳郎

亡き妻の喪中はがきに白花が届く十年会わぬ友より 東京 佐藤 一郎

夫の愚痴煩ふくらませ喋つてる友は数年前のわたしだ 鹿嶋市 大熊佳世子

老いとはかういふことか雨の日の日暮れのこと細さと言つたら 米子市 永田富喜子

新聞にでかい写真の広告のあふれ大事なこと 成田市 神都 一成

また今朝もワールドニュースあちこちで食い破られし地球の臍物 鹿児島市 岡村梨枝子

加藤 治郎 選

コーヒーにミルクを垂らすそのことで君を独占しようとしてる 岐阜市 山上 秋恵

「評」なぜ独占につながるのだろう。もうじき2人だけの世界が出来上がる。ミルクの優雅な渦を見て君は私のものになる。手の内でクシャッと潰れたビール缶見事なまでに寂しさの形 広島市 堀 眞希

「評」自分で潰したのである。寂しさの形として深く納得する。切ない歌である。透きとおるコンソメスープを見つめている少し手狭な二人の暮らし 川崎市 新井 将

追いかけないしあわせもある四本のホワイトアスパラガスのまっすぐ 津市 川原田明子

風が吹くたびに身体感覚が生まれてしまうつつもさみしい 名古屋市 森本 有

箱庭の中が一番安心で大きな大きな海を創った 東京 畑 えな

飲みかけの豆乳飲料するるときわたしは半分わたしをやめる 平塚市 芝澤 樹

なくさんの言葉が浮かんでくしまう鮎を包んだ和菓子を食べる 横須賀市 森久保りりか

いつだってスマホ越しのアイラブユー たまには紙が砂に書いてよ 横浜市 荒田絵里子

ふと見えたタイムラインは漆黒できみの世界にもう混ざれない 東京 石井 しい

水原 紫苑 選

裁けない罪を背負った君を乗せイルカはきつと沖へと進む 東京 カ ヒ

「評」わけのわからない人間を乗せて、イルカはきつと困っているに違いない。沖に誰が待っているのか。教会をお終いにするものは火と教わって火に近づけた顔 東京 碓井やすこ

「評」火は祈りだが、別れでもある。火に近づけた顔は冷たい。だいじょうぶ 光をあててやるようにゆっくりと削ぐ果実の鏝 加古川市 石村 まい

自転車は円と棒なり えいえんに星を零してある冬銀河 東京 吉岡 耕大

読書家の起源としてのまなざしに我は包まれ引越前夜 東京 結羽 成

ターナーの絵葉書を撫で抽斗に冬のしづくをこぼさず入れる 東京 山野ゆかり

初雪の壊れる速度 手のひらの熱それさえも暴力だった 高島市 くらたか湖春

石垣を伝う木の根は標本のようにひそめて命を見せる 新座市 睦月くらげ

保険証なんかいらぬ 命だけ持つわれを診てくれる海風 四日市市 早川 和博

血みたいと思えばそこからそれは血で濁りのない近親交配 川崎市 二宮 珊瑚

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051 (住所不要) 毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生 (希望選者名) 係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)

でも受け付けています。他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます

29日は今年の毎日歌壇賞・俳壇賞を掲載します。